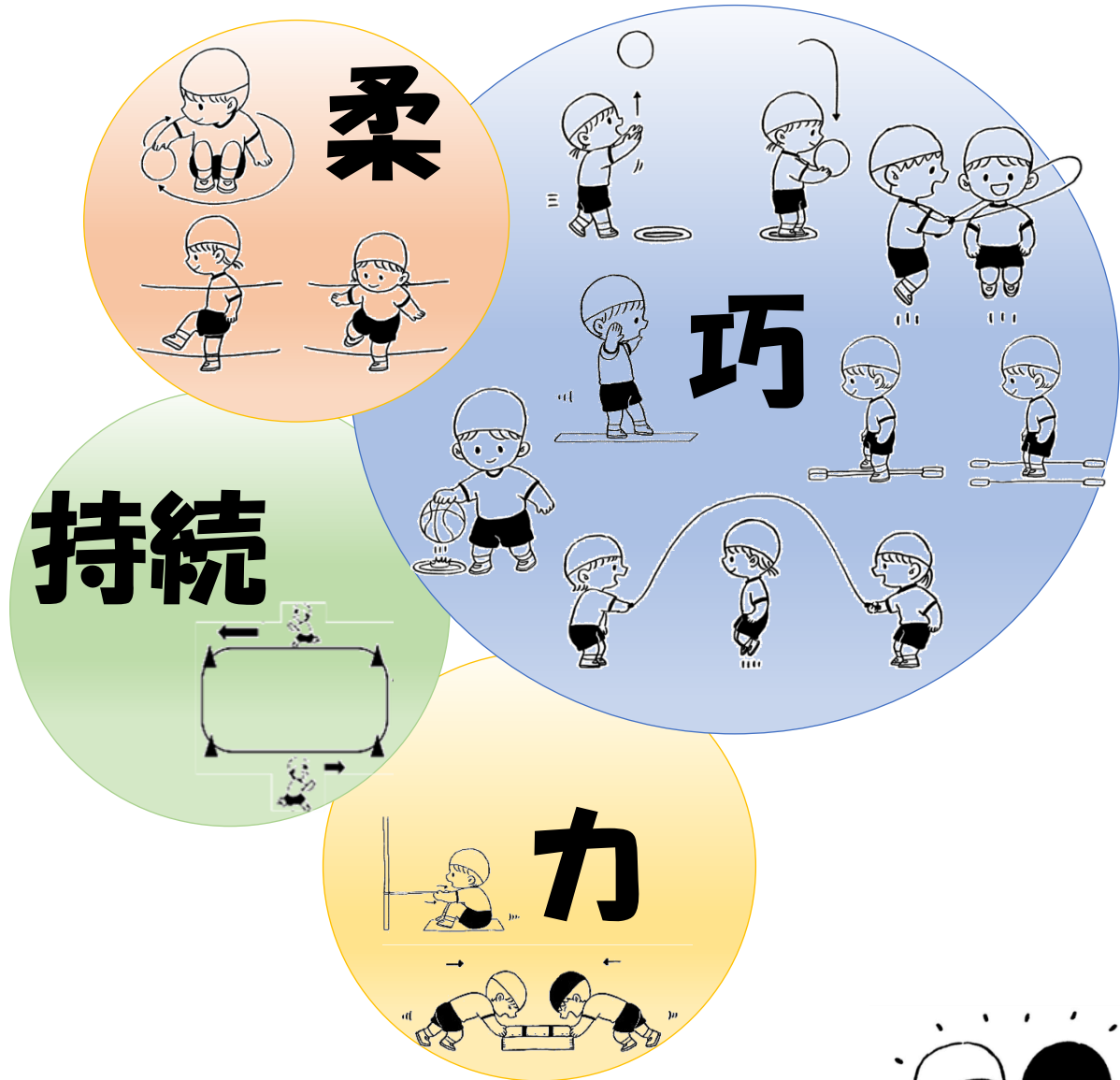


令和4年度 東京都小学校体育研究会 体の動きを高める運動領域部会

東京都小学校体育研究会 研究主題

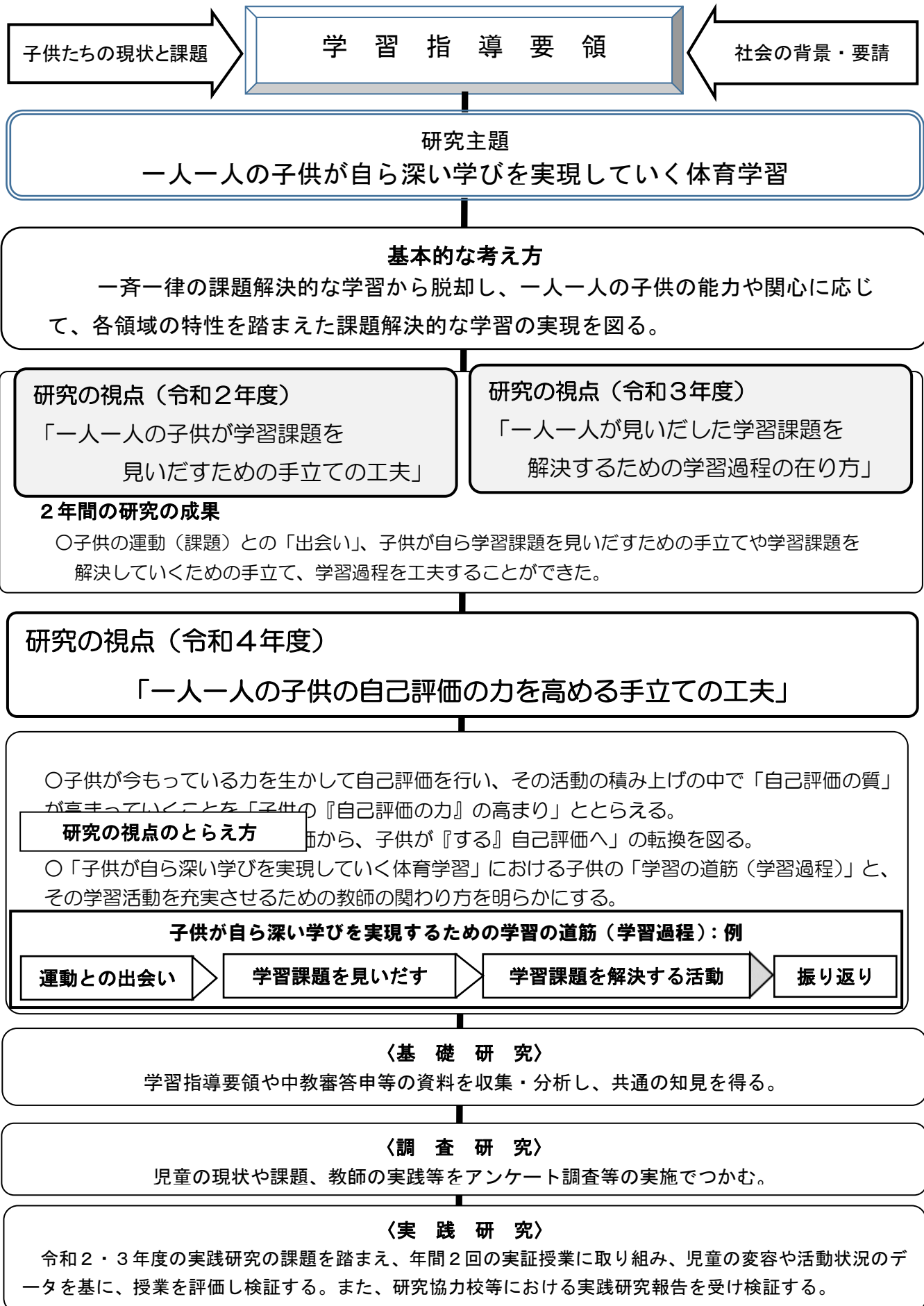
「一人一人の子供が
自ら深い学びを実現していく体育学習」



授業日	令和4年12月14日(水)午後1時30分
会場	江戸川区立上小岩第二小学校 体育館
授業者	岡田 真典 主幹教諭
单元名	第5学年「体の動きを高める運動」
講師	西東京市教育委員会 指導主事 田邨 佳宏 先生



研究の全体構想図



I 研究の概要

1 研究主題

「一人一人の子供が自ら深い学びを実現していく体育学習」

2 基本的な考え方

小学校学習指導要領の改訂の趣旨やこれまでの研究経過を踏まえて設定した本研究主題による研究は、今年度で3年目（最終年次）となる。本研究会では、これからの体育科の授業に求められるものは、個々の子供が自ら学びたい、追究したいと思う学習課題を見だし、試行錯誤を重ねながら課題を解決していくこと、そして、この学びに子供が協働的に、繰り返し取り組むことで、子供自身が深い学びを実現していけるようにすることであると捉えている。このことが、持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を一人一人が身に付けていくことにつながると考えた。

研究主題に迫るため、令和2年度には、「一人一人の子供が学習課題を見いだすための手立ての工夫」を、令和3年度には「一人一人が見いだした学習課題を解決するための学習過程の在り方」を研究の視点とした。実証授業を通して、子供一人一人が、今もっている力を存分に発揮し、主体的に学ぶ姿が見られる授業への改善を進めることができた。

今年度は、この主体的な学びをさらに充実し、子供が自らの学習をPDCAサイクルに沿ってマネジメントし、深い学びにつなげていけるようにすることを目指して研究を推進し、研究主題の実現に迫る。

3 研究の視点

(1) 本年度の研究の視点

「一人一人の子供の自己評価の力を高める手立ての工夫」

(2) 研究の視点について

これまでの2年間の研究の成果と課題を踏まえ、子供が自ら深い学びを実現していくことができるようにするため、今年度は、子供が自らの学習課題を解決する活動の中で行う「自己評価」に焦点を当て、研究の視点を設定した。学習課題の解決に向けて、子供が自らの学習を振り返り、新たな学習課題を見いだしたり、学習の進め方や課題解決の手立てを工夫したりして学習を調整し、粘り強く課題解決に取り組めるようになるためには、「一人一人の自己評価の力」を高めることが重要であると捉えた。「自己評価の力」が高まることで、子供たちはさらに主体的に学習に取り組むことができるようになり、PDCAサイクルに沿って自らの学習をマネジメントし、子供自身が自らの力で深い学びを実現していくことができるようになると思う。

(3) 「自己評価の力」の捉え方について

本研究では、子供たちは、どのような発達の段階であっても、学習経験に違いがあっても、運動や学習に取り組む中で、一人一人が「今もっている力で自己評価を行っている」ととらえている。子供は、これまでの学習経験や運動経験の中で身に付けてきた様々な力を生かしたり関連させたりしながら自己評価を行っている。そのため、一人一人の子供がもつ自己評価の力は、これまでの経験によって異なり、自己評価の場面で活用する力も異なっていると考える。この一人一人がもつ自己評価の力を、子供自身が見いだした学習課題を解決する活動を通して高めていく。

また、子供が今もっている力を生かして自己評価を行い、その活動の積み上げの中で、「自己評価の質」が高まっていくことを「子供の『自己評価の力』の高まり」ととらえている。今年度の研究においては、このような子供一人一人がもつ「自己評価の力」を高めていくための手立てを工夫する。

(4) 研究の経過及び領域部会独自の研究の視点について

① 研究の経過と研究の視点について

本研究会では、研究主題に迫るため、これまでに次の研究の視点を設定して研究を推進してきた。

令和2年度 子供一人一人が自らの学習課題を見いだすための手立ての工夫
令和3年度 子供が見いだした学習課題を解決していく学習過程の在り方

また、これらの視点に基づく研究活動及び実証授業の結果から、子供が自ら深い学びを実現していくためには、次の2点が重要であると考え、各領域部会においてその手立てを具体化し、実証授業を繰り返し行い、研究を進めてきた。

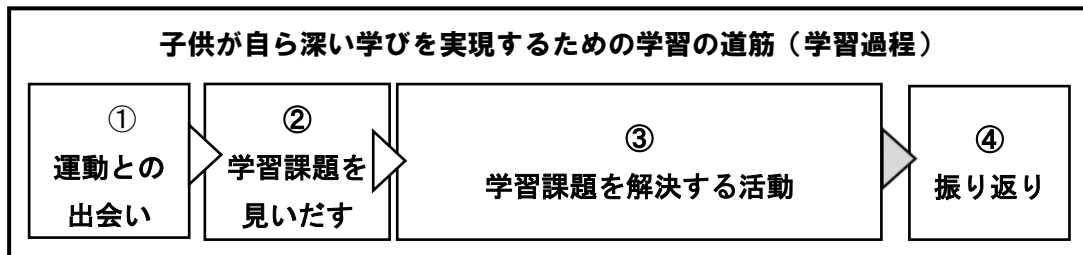
○子供が見いだした学習課題を解決するための手立ての工夫
○子供と運動との「出会い」の工夫（保健領域では「子供と課題との『出会い』」）

そして今年度、「子供一人一人の『自己評価の力』を高める手立て」に視点を当てて研究を進め、実証授業を通して手立ての有効性について検証を行う。特に、「教師が『させる』自己評価から、子供が『する』自己評価へ」の転換を図ることを重視している。このことにより、「子供が自ら深い学びを実現していく体育学習」における子供の「学習の道筋（学習過程）」と、その学習活動を充実させるための教師のかかわり方を明らかにすることができると考え、研究を進めていく。

② 部会独自の研究の視点について

上記の都小体研の研究の視点以外に、各領域部会がこれまでの研究において、研究課題となっている事項のうち優先順位の高いものを「部会独自の研究の視点」として設定して研究を進める。

図：「子供が自ら深い学びを実現していく体育学習」における子供の「学習の道筋」(例)



令和2年度の研究の視点は、図中②のための手立ての工夫とした。研究を進めていく中で、図中③の充実を図るための手立てを工夫する必要があることが明らかとなり、実証授業を通してこれらの手立てについて検証を行った。その際、子供が自らの学習課題を見いだせるようにするためには、「運動と子供との『出会い』」が重要であることが明らかになった。

令和3年度は、子供が自ら学習課題を見いだすことにつながる「運動との出会い」の在り方や手立てを工夫した（図中①）。また、前年度の研究の視点に加え、「子供が運動と出会い、学習課題を見だし、それを解決するための活動を行う」という学習の道筋を整理する目的から、「子供が見いだした学習課題を解決するための学習過程の在り方」に視点を当てて研究を進めた。実証授業を通してこれらの手立ての検証を行った結果、研究主題「子供が自ら深い学びを実現していく体育学習」に迫るためには、子供自身による学習の「振り返り」（図中④）の充実を図ること、学習を振り返ることを通して一人一人の自己評価の力を高めていくことが必要であると考察した。

そこで、令和4年度は、一人一人の子供の『自己評価の力』を高める手立ての工夫」を研究の視点とした。また、子供が行う「振り返り」を単元や1時間の終末に行う学習活動に限定して捉えずに研究を進めていくこととした。子供は、学習活動の様々な場面において、自分の動き、運動や学習課題への取り組み方、取り組んだり試したりした結果などを振り返っており、これらを含めて「自己評価」ととらえている。

今年度は、これらを踏まえて実証授業を行い、工夫した手立てについての検証を行った結果を基に、「子供が自ら深い学びを実現していく体育学習」の在り方についてまとめていく考えである。

Ⅱ 学習指導案

体の動きを高める運動系領域部会 実証授業②

1 研究主題の実現に向けた部会の考え方

研究主題の実現に向けて、本部会では以下の内容で研究を進めてきた。

令和2年度 研究の視点「一人一人の子供が学習課題を見いだすための手立ての工夫」

体の動きを高める運動の特性を踏まえた学習課題を「目的」「高め方」「修正・活用」と捉えている。

○自分なりの目的意識を見だし設定する学習課題

例)「なぜ、体の動きを高めるのか。」「何のために体の動きを高めるのか。」

○自分なりの高め方を考えて設定する学習課題

例)「体の動きを高めるためにはどのように運動に取り組んだらよいか。」

○自己の取組を修正したり、発見した高め方を活用したりして、体の動きをさらに高めるために設定する学習課題

例)「自分に合った運動なのか。」「さらに、高めるにはどうしたらよいか。」

令和3年度 研究の視点「一人一人が見いだした学習課題を解決するための学習過程の在り方」

子供の思いや願いを喚起し、子供自身がやってみて感じた問いをもとに学習課題を設定していくことで、子供一人一人が学習課題を見だし、体の動きを高めていく学習を実現できると考えた。

子供たちが自ら学習課題を見だし、学んだことを活用・修正することができるように、3時間分の簡単な見通しを立てて取り組む第6学年の学習過程を作成した。

令和4年度 研究の視点「一人一人の子供の自己評価の力を高める手立ての工夫」

「なぜ運動したことを自己評価するのか」などの目的意識や必要感が「いつ、自己評価するのか」「何を自己評価するのか」などの課題につながり、子供が「する」自己評価活動につながると考える。子供自身が「なぜ？」と目的を問うことが「いつ」「何を」と課題を見いだしていくことにつながる。本部会の領域特性もふまえて、目的意識や必要感が一人一人の子供が自ら深い学びを実現していく体育学習には、必要不可欠だと考える。

2 研究の視点

○自己評価について

一人一人が自己の体の動きを高めるために、学習課題を解決する過程の様々な場面で、学習課題や解決方法が自分に合っているかを、必要感をもって主体的に振り返ろうとする活動。



なぜ自己評価するのかな？
いつ自己評価するのかな？
何を自己評価するのかな？
どのように自己評価するのかな？

(なぜ) 一人一人が自己の体の動きを高めるために、
(いつ) 学習課題を解決する過程の様々な場面で、
(何を) 学習課題や解決方法が自分に合っているかを、
(どのように) 必要感をもって主体的に振り返ろうとする活動。

◎自己評価活動を含んだ学習課題を解決する活動

「やってみる→問い→学習課題→運動→振り返り（学習課題や解決方法について）」のスパイラル。



3 夏季合同研究会より

(1) 実証授業①の成果と課題

成果	<ul style="list-style-type: none"> ○学習過程を工夫することで、子供の「自己評価」する力を高めることができた。 ○子供が見いだした、「学習課題」を「自己評価」できるようになるために、教師の言葉掛けを精選できた。 ○子供が必要感をもって活用するような「学習カード」を作成することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ▲「体の動きを高める運動」としての特性である、「目的意識をもって取り組むこと」について子供自身が理解を深めること。 ▲子供が「自己評価」する力をより一層高めるために、学習過程上で「教師が教えること」を明確にすること。

(2) 実証授業②で明らかにしたいこと

- ・子供が「する」自己評価の力が高まる第5学年の学習過程
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体化
- ・一人一人が自ら深い学びを実現するための指導と評価

4 学習指導案

(1) 実証授業② 実施校、実施学級

江戸川区立上小岩第二小学校 第5学年1組 児童：35名

指導者：岡田 真典 主幹教諭

(2) 単元名

体づくり運動 「体の動きを高める運動」

(3) 単元の目標

知識及び運動	ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ①体の動きを高める運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ②体の各部位の可動範囲を広げる体の動きを高めることができる。 ③人やものの動き、または場所の広さや形状などの環境の変化に対応して、タイミングやバランスよく動いたり、リズムカルに動いたり、力の入れ方を加減したりする体の動きを高めることができる。 ④自己の体重を利用したり、人や物などの抵抗に対してそれを動かしたりすることによって、力強い動きを高めることができる。 ⑤一つの運動又は複数の運動を組み合わせて一定の時間続けて行ったり、一定の回数を反復して行ったりすることによって、動きを持続する能力を高めることができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ①動きのポイントと自己や仲間の動きを比較し、自己や仲間の課題を見付けている。 ②自己の体力に応じて取り組む動きを選んだり、動きに工夫を加えたりしている。 ③観察し合って見付けたこつやわかったこと、解決の仕方や改善方法について伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ①体の動きを高める運動に積極的に取り組もうとしている。 ②互いの動きを観察し合ったり、教え合ったりするなど、仲間と助け合おうとしている。 ③学習に必要な物や用具の準備などで、役割を果たそうとしている。 ④わかったことを伝え合ったり、課題の解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配っている。

(5) 児童の実態

本学級の子供は、体育の学習に進んで取り組む子供がほとんどである。意欲的に取り組む姿が見られる反面、「取り組むべきことが分からない」「失敗してしまうかもしれない不安感」などから運動場面で消極的になってしまう場面も見られる。

自己評価する活動として、体育の学習に限らず、他教科でも自身の学びを振り返る時間を設定している。教師から「その時間でできるようになったこと」「次の時間にやってみたいこと」のように視点を明確にすることで学びを振り返りがしやすくなる子供が多くいる。その時間のめあてを前時の活動から振り返り、児童とともに決定する活動を取り入れているが、自分自身の学習課題を見いだすことができる子供は少ない。

以上のことから、子供が自分の学習課題を捉えながら必要感をもち、自己評価しながら学習課題を解決していく力を高めていく。

(6) 子供が自ら深い学びを実現していくための手立ての工夫

① 自己評価する力を高めることのできる学習過程の工夫

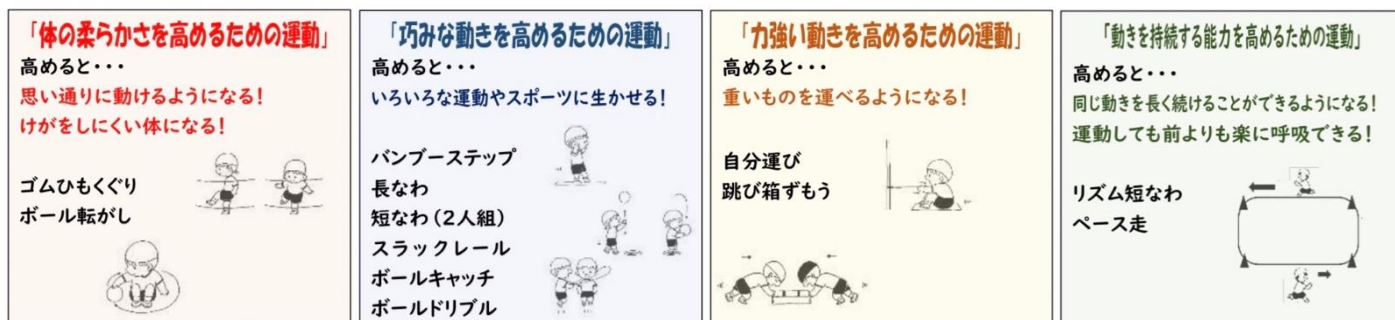
ア 運動例の充実

本実践で扱う運動例を決定する視点として、以下の点を重視した。

単元で扱う運動例の視点	
・運動の楽しさを味わうことができる	・工夫の良し悪しが分かりやすい
・高まる動きが明確である	・高まりの実感がしやすい

扱う運動によっては、工夫が広がりすぎてしまい、子供も指導者も工夫の良し悪しの判断が難しいものや自分自身が高めたい動きを意識しにくいものがあつた。

よって、今回扱う運動を精選した。また、運動例集には、教師用の資料として「運動のポイント」や「運動の活用・修正」、「問いを促す言葉かけ」を記入している。



イ 全体、グループ、個人で素早く振り返りが行える「ポイントボード」

コメント機能のあるデジタル共有ツールを活用し、「動きができるようになるため気を付けた体の部分（ポイント）」「さらに、体の動きを高めるために工夫した動き」をポイントボードに添付していく。また、タブレットを活用することで、多様な環境でも入力したり、確認したりできると考えた。

できるようにするために気を付けた体の部分は？	さらに高めるために工夫した動き
なわがついた時に入る	逆さ回しで入る
回っているなわの真ん中をとぶ	2人同時に入る
回している人のそばから抜ける	片足ケンケンでとぶ
	とびながらボールをキャッチする

② 自己評価の力を高めるための手立て

ア 教師の働きかけの工夫

教師の働きかけを工夫するために、「子供が考えること」、「教師が指導すること」を整理した。以下が、その表である。

子供が考えること	教師が指導すること
<ul style="list-style-type: none"> ・運動のポイント。 ・運動の工夫。 ・どのような目的意識をもって運動に取り組むか。 ・どのような運動を選択して体の動きを高めるか。 ・問いから学習課題を見いだすこと。 ・見いだした学習課題をどのように解決するか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の動きとは何か。 ・体の動きを高めるとどのような効果があるか。 ・体の動きの高まりの定義。 ・どのような運動を通して、体の動きを高めるか。 ・運動の基となる動き。 ・運動の工夫する視点。 (姿勢、方向、リズム、人数、用具) ・発達の段階上、「体の柔らかさ」、「巧みな動き」が高まりやすいこと。 ・安全面に関すること。

また、子供の具体的な姿に応じて、教師が適切に働きかけることで自ら自己評価する子供の姿が変容していくと考えた。運動への関心・意欲を向上させ、目的意識をもつことへの働きかけや体の動きの高まりを実感し、学習課題の修正や活用をする働きかけを行っていく。子供と教師の関わりをモデルに、子供同士の関わりをより豊かなものにしていく。

【具体的な学習場面での教師の働きかけの例】



運動して子供が感じたことを気付けるようになる言葉掛け
「やってみてどうでしたか？」



動きのポイントを気付けるようになる言葉掛け
「体のどこ（部位）をどう動かすとできましたか？」

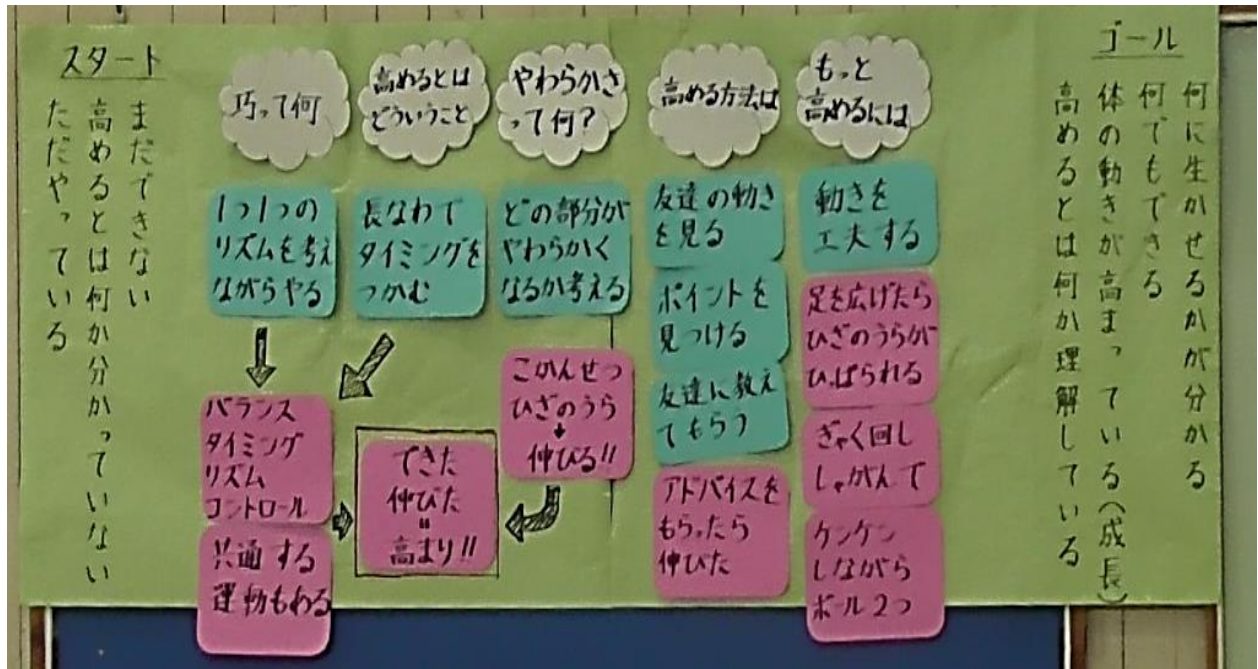
体の動きの高まりを気付けるようになる言葉掛け
「今までの自分と比べてどうですか？」 「友達の動きと比べてどうですか？」

イ 個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指した「学びのロードマップ」

(※学びのロードマップ⇒単元を通して、作成していく子供の学びを価値付けた掲示物である。)

自身の問いから学習課題を見だし、子供たち一人一人が主体的に学習に取り組めるように、学びのロードマップを作成する。学習前の現状を把握した上で学習後の目標を設定する。目標を達成するための問いと学習課題を学びのロードマップを用いて学級全体で共有することで、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に行っていく。

実証授業①で作成した学びのロードマップ



実証授業①の第1時で子供がもった問い

◎目的に関する問い	◎高め方に関する問い	◎修正、活用に関する問い
<ul style="list-style-type: none"> なぜこんなに楽しいのか 巧みは何なのか どうして高めるのか 巧み6種の共通点と違いは 高めるとはどういうこと 何に役立つ 何が高まるのか 今日は高まったのか よく分からない(問いとして価値付けていい。) 	<ul style="list-style-type: none"> どうやったら体力がつくのか 巧みを高めるにはどうするのか ボールキャッチはどうやるのか どうすれば輪の中にボールを入れられるのか ボールドリブルをうまくするには バランス以外にもポイントがあるのか バンブーでリズムを合わせるには 長なわのポイントは 	<ul style="list-style-type: none"> 工夫すればもっと高められるのか リズムカルコース走はどうすれば速くなるのか どうしたらもっと高まるか どうしたら足の動きに手の動きを合わせられるか どうやったら遠くに投げたボールをキャッチできるか どうしたらもっと輪の中にドリブルできるか

価値付けていきたい子供の問いの分類

	体の動きを高めること 目的に関する学習課題	体の動きの高め方に関する 学習課題	自己の取組を修正、活用する に関する学習課題
簡単な問い	何をすればいいのかな	次は、何をしようかな	どうしてできたのかな
広げる問い	何ができるかな	(高めるために) どうすればいいのかな	(もっと高めるために) どんな工夫をしようかな
深める問い	何の体力を高めようかな	自分の体の動きは 高まっているのかな	次からは、どうやって 高めていこうかな

第5学年 具体的な学びのロードマップ 作成・活用例

第1時 ①問いをもつ（運動との出会い）	
子供	教師（具体的な学習場面での働きかけ）
<p>体の動きを高める運動のプロモーションムービーを観て、新たな運動に取り組みたいという意欲を高める。子供が実際に運動に取り組んで感じたことや考えた問いを学習カードに記入する。</p>	<p>◎運動中の教師の働きかけ（実感を促す） 第1時は「やってみてどうだった？」と運動して子供が実感したことを問いとして、価値付ける。「やってみよう」「楽しそう」という思いを大切にする。</p>
<p>⇒第1時は学びのロードマップの作成準備段階。振り返りの場面で多様な動きをつくる運動との違いとして体の動きを高める運動は目標（単元終わりを見通した姿）・目的（その時間に何を高めたいのか）をもって運動に取り組んでいくことが大切であることを確認する。</p>	
第2時 ②学習課題を見いだす（体の動きを高める運動とは何か）	
子供	教師（具体的な学習場面での働きかけ）
<p>第1時の問いを活用し、問い、学習課題、結果のサイクルの例をみんなで作ってみる。 問い 「体の動きを高める運動とは？」 学習課題「目的をもって運動に取り組んでみる」 結果 「タイミング・リズム・力の調整・バランスが高まった。」 ※問いや学習課題は1人1人で異なり、自分に合った学習課題が大切であることを知る。</p>	<p>「何が高まりそうかな？」を切り口に巧みでは、「タイミング・リズム・力の調整・バランス」が高まることを確認する。 ◎運動中の教師の働きかけ（目的の価値付け） 「やってみてどうだった？」 ⇒「何を高めたいの？」「何が高まったと思う？」と体の動きを高める運動は目的をもって運動に取り組んでいくことが大切であることを意識付ける。</p>
<p>⇒第2時以降は、価値付けたい学びを子供の学習カードから見取り、授業の導入の時間に共有していく。 【問 い】運動を通して感じた疑問や好奇心など 例「どうすればいいのかな？」 【学習課題】問いを解決する方法 例「こうしてみよう！」 【結 果】振り返ったこと 例「こうだった、こうなった。」</p>	
第3時 ③現状を知り、目標を設定する。	
子供	教師（具体的な学習場面での働きかけ）
<p>運動後の自分(自分たち)がどのようになっていたのか目標を決める。5年生は選択。6年生は自分で決める。 目標例 色々なことができるようになりたい 自分がやっているスポーツに生かしたい 自分に合った運動を見付けたい 上手に動けるようになりたい</p>	<p>第1・2時の学習カードから運動に取り組んでみて感じた自分の気持ちや運動に対する気持ちを共有し、現状を確認する。 ◎運動中の教師の働きかけ（ポイントの価値付け） 「やってみてどうだった？」 ⇒「どうしてできたの？」 「体をどう動かせばできるの？」</p>
<p>⇒第3時 学びのロードマップで価値付けたい学び 【問 い】「どうすれば、〇〇ができるのかな？」「〇〇を高めるにはどうすればいいのかな？」 【学習課題】「〇〇を意識して運動してみよう」「ポイントを見つけて運動してみよう」 【結 果】「体の動きが高まった」「〇〇ができるようになった」</p>	
第4時 以降 導入と振り返りの場面でロードマップを活用して学びを価値付けていく。	
<p>⇒第4時 ◎運動中の教師の働きかけ 工夫の視点「姿勢・用具・人数・方向・リズム」を示す 「やってみてどうだった？」⇒「何の工夫してるの？」「その工夫で何が高まりそう？」 学びのロードマップで価値付けたい学び 【問 い】「どうしてもっと体の動きを高められる？」「〇〇をもっと高めるにはどうすればいい？」 【学習課題】「〇〇を工夫して運動してみよう」「工夫して運動してみよう」 【結 果】「より体の動きが高まった」「〇〇ができるようになった」 ※第5時以降も、実態に合わせて体の動きを高めていく学び方を学びのロードマップを使って全体に共有していく。</p>	

ウ 一人一人が自ら深い学びを実現するための「デジタル学習カード」

「明らかにしたい問い一覧」、「1枚ポートフォリオの学習カード」、「学びの経過グラフ」を1セットとした「デジタル学習カード」を作成した。

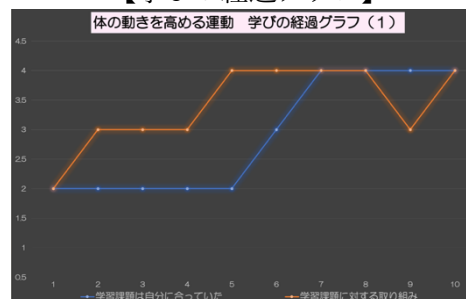
デジタル学習カードは、5人で1つのファイルを共有して使用できるようにした。それにより、問いをもつことや、問いから学習課題を見いだすことに苦慮している子供が、仲間のカードを参考に学ぶことができるようにした。また、子供自身もった問いや学習履歴の一覧性を高めたり、互いの学習課題を把握しやすくしたりすることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図り、より深い学びを実現できるようにした。

さらに、子供が学習カードに入力した振り返りは、「教師用ファイル」に即時反映できるようにリンクを貼り付け、教師が子供の学習状況をより把握しやすくなるような手立てを講じた。

【明らかにしたい問い一覧】

【1枚ポートフォリオの学習カード】

【学びの経過グラフ】



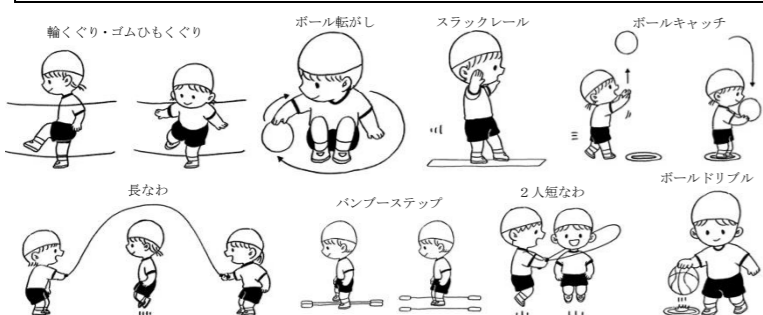
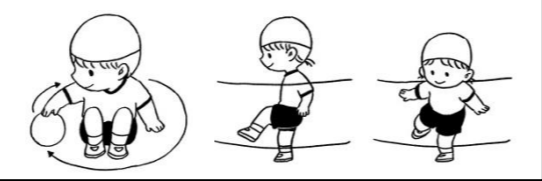
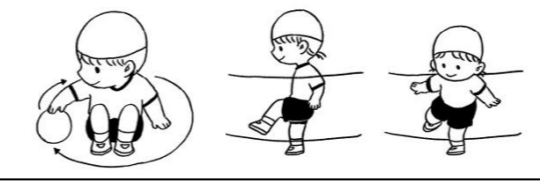
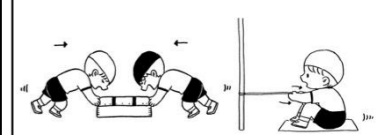
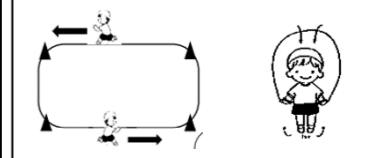


【教師用ファイル】

【学習カード記入の例】

時間	アドバイス	時間	1
明らかにしたい問い	問い一覧に入力すれば、選べるようになるよ。	明らかにしたい問い	
学習課題	問いを明らかにするために、実行したいことを書こう。	学習課題	
運動	取り組む運動を選ぼう。	運動	ボール転がし ゴムひもくぐり 長なわ 短なわ (2人組) ボールキャッチ
自己評価	自己評価を入力すると、学びの経過グラフに反映「本時の振り返り。+だから、次は(も)~する。」の型で書こう。	自己評価	に合っていた 3 する取り組み 2
振り返り		振り返り	ボールドリブル パンプーステップ スラックライン 自分運び 跳び箱ずもう ベース走 リズム短なわ
先生より	先生からコメントをするよ。	先生より	

(7) 学習過程

子供の自己評価する力を高めるために『「やってみる」→「問い」→「学習課題」→「運動」→「振り返り」→「やってみる」...』のサイクルを子供1人1人が回していき、学習課題や解決方法が自分に合っているのか、必要感をもって主体的に振り返ることができる学習過程を作成した。第5学年では、第4学年までに取り組んできた「多様な動きをつくる運動（遊び）」の経験を生かして学習を進めていく。第1時に見出した「問い」を「学習課題」につなげていく。その後、動きができるようになるためのポイントを見つけて運動したり、動きを工夫したりしながら体の動きを高めていく。第5学年では、子供たちの目標に応じて、目的意識をもって運動に取り組むことの大切さに気付けるようにし、第6学年の学習につなげていく。

時間	1	2	3・4	5・6	7・8※本時は7時	9・10
段階	問いをもち、学習課題を見いだす		「体の動きを高める運動」の学び方を知り、課題を解決する			学んだことを活用し、自己の体の動きを高める
学習内容	運動との出会い 問いをもつ	問いと学習課題の 関係性を知る	ポイントを見付け ながら高める	動きを工夫 しながら高める	ポイントを見付け ながら高める	動きを工夫 しながら高める
学習活動	1 集合、整列、挨拶を行う					
	2 これまでの学習経験を振り返る 3 体の動きを高める運動のプロモーションムービーを観る 4 準備運動を行う 5 体の動きを高める運動に取り組む					
学習活動	2 前時にもった問いを共有する 3 準備運動を行う 4 体の動きを高める運動に取り組む		2 学びのロードマップ、自分の学習課題を確認する。			
	3 準備運動を行う		3 準備運動を行う			
学習活動	1・2時で児童が行うことができる運動 体の柔らかさを高めるための運動・巧みな動きを高めるための運動 		4 体の柔らかさを高めるため運動に取り組む ボール転がし（3時）、 輪くぐり・ゴムひもくぐり（4時） 		4 体の柔らかさを高めるため運動に取り組む ボール転がし、輪くぐり・ゴムひもくぐり のいずれかを選択して取り組む。（5、6時） 	
	4 体の動きを高める運動の動きを選択して取り組む ・取り組む運動（1～3種まで） ・時間配分 を自分で決める 		4 力強い動きを高める運動（9時） 動きを持続する能力を高める運動（10時） に取り組む 【9時】 跳び箱ずもう 自分運び  【10時】 ペース走 リズム短なわ 		4 力強い動きを高める運動（9時） 動きを持続する能力を高める運動（10時） に取り組む	
学習活動	6 運動を通して考えたり感じたりした問いをもつ。 7 整理運動を行う 8 振り返りを行う		5 巧みな動きを高めるため運動に取り組む 巧み前半→共有タイム→巧み後半 【3・4時】（3種から2種まで選択可） 長なわ（タイミング） ボールドリブル（力加減） スラックレール（バランス） 		5 巧みな動きを高めるため運動に取り組む 巧み前半→共有タイム→巧み後半 【5・6時】（3種から2種まで選択可） 2人短なわ（タイミング） ボールキャッチ（力加減） バンブーステップ（リズムカル） 	
	5 整理運動を行う 6 振り返りを行う		5 整理運動を行う 6 振り返りを行う（次時に取り組む運動を選択する。） ※第6時は、第7・8時の2時間分の運動を選択する。		5 整理運動を行う 6 振り返りを行う（次時に取り組む運動を選択する。） ※必要に応じて運動を選択したことを修正する	
教師のかかわり	「やってみてどうだった？」 子どもの「やってみよう。」 「楽しそう。」という思いを大切に。実感したことを問いとして、価値付けていく。	「何を高めたいの？」 「何が高まったと思う？」 体の動きを高める運動は目的をもって運動に取り組んでいくことが大切であることを意識付ける。	「どうしたらできたの？」 ポイント意識をもって運動することの大切さを確認する。	「どんな工夫をすると高められるかな？」 動きを工夫する視点を示しながら体の動きを高める方法を確認していく。	「できるようになるポイントは何か？」 異なる運動でも、ポイントを意識しながら運動することの大切さを確認する。	「何を高めるためにどんな工夫をしたの？」 異なる運動でも、体の動きをさらに高めるための工夫を考えられるように言葉掛けをする。
	「目標に向かって運動に取り組んでいるかな？」 目的意識をもって運動に取り組めるように言葉掛けをする。		「さらに体の動きを高めるためにどんな工夫ができてそう？」 「力強い動きを高める運動」「動きを持続する能力を高める運動」でも、これまで身に付けてきた学び方を意識できるようにする。			

(8) 本時の学習 (7/10)

① 本時のねらい

学習課題を解決するために、自己の体力に応じて体の柔らかさや巧みな動きを高める運動に取り組むことができるようにする。

② 展開

学習内容・活動	○教師のかかわり ◎配慮児童への支援	□評価方法
<p>1 集合・整列・挨拶を行う。</p> <p>2 自分の学習課題やロードマップを確認する。</p> <p>3 準備運動と場の準備を行う。</p> <p>4 体の動きを高める運動に取り組む。</p> <p>【体の柔らかさを高める運動】 (下記から1つ選択) ○ボール転がし ○ゴム紐くぐり</p> <p>【巧みな動きを高める運動】 (下記から1つ以上選択) ○長なわ ○短なわ ○スラックレール ○ボールドリブル ○ボールキャッチ ○バンブーステップ</p>	<p>○教師のかかわり ◎配慮児童への支援</p> <p>○子供のデジタル学習カードから「問い」「学習課題」「結果」を共有する。</p> <p>○部位を意識できるよう声をかける。</p> <p>○物を運ぶ際の安全面について指導する。</p> <p>○子供に問いかけることを意識してねらいに迫るようにする。</p> <p>○動きが雑になっている場合は、丁寧に運動に取り組めるように声をかける。</p> <p>○もとの動きから見付けたポイントを意識することや、動きを工夫することで体の動きを高めることができることを確かめられるように言葉掛けをする。</p> <p>◎高まりの実感がなかなか伴わないようであれば、自分や友達に取り組んでいる様子を客観的に見ることや、友達との相談をすすめるようにする。</p>	<p>□評価方法</p> <p>□自分の体の状態や体力に応じて、運動を選んだり行い方を工夫したりしている。 (観察・発言)</p> <p>□動きのポイントについて仲間言葉や動作で伝えている。 (観察・発言)</p>
<p>【運動に取り組んでいるときの教師のかかわり例】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="185 1198 754 1413">  <p>「やってみてどうだった??」 一人一人に合った働きかけを行うために子供の状況をつかむ</p> </div> <div data-bbox="810 1182 1460 1413">  <p>「上手いきません…」 自分に合った動きだったかな? もう少しでできそうな動き?</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="145 1451 794 1742">  <p>「〇〇が高まりました。」 「なんでそう思ったの?」「次はどうしたい?」 「〇〇の工夫してもっと動きを高めます。」 高まりの実感</p> </div> <div data-bbox="810 1451 1460 1742"> <p>◎配慮児童への支援</p>  <p>「???」「分かりません。」 動きのポイントを確認してみよう。友達の動きを見てみよう。動画で自分の動きを確認してみよう。</p> </div> </div>		
<p>5 整理運動・片付けを行う。</p> <p>6 振り返りを行う。</p>	<p>○各部位を意識して運動するように声をかける。</p> <p>○動きを工夫したり、友達と関わったりことで体の動きが高められることに気付いていた児童を意図的に取り上げるようにする。</p> <p>○課題解決の進捗状況を聞き、次回の見通しをもつことができるようにする。</p>	